

第2回 鉄軌道サービス部会の開催結果について

1. 日時 令和4年11月4日（金）15時00分～
2. 出席者（敬称略）

所属・役職	氏名	備考
関西大学経済学部 教授	宇都宮 浄人	部会長
富山大学都市デザイン学部 教授	本田 豊	
西日本旅客鉄道株式会社金沢支社 地域共生室企画課 交通企画室長	鹿野 剛史	
あいの風とやま鉄道株式会社 代表取締役社長	日吉 敏幸	
富山地方鉄道株式会社 専務取締役	新庄 一洋	
万葉線株式会社 代表取締役専務	楠 達男	

3. 概要

9月1日の県地域交通戦略会議で了承された基本的な方針・考え方に基づく「関係者間の役割分担・責任分担」に関して、地域鉄道に対する国の支援制度をもとに現状を把握するとともに意見交換を実施

(1) 現状把握

- ①あいの風：並行在来線会社として設立された経緯から、国、県、市町村、経営安定基金から支援を受けている
- ②万葉線：第三セクターとして国、県、沿線2市から支援を受けている
- ③富山地鉄：国、県、沿線市町村から支援を受けているが自社負担がある

(2) 意見交換（主なもの）

- ・ 第三セクターと中小民鉄の間で支援・負担に差があることがわかり、今後の役割分担・責任分担を考えるうえで、その差をどう埋めていくか
- ・ 第三セクターと中小民鉄ともに、安定的にサービスを提供できるようにすべき
- ・ 道路は基本的に公共事業だが、鉄道は事業者のビジネスを側面支援する形
- ・ 現行の交通事業者の努力プラス補助金という形では、抜本的な課題解決につながらない
- ・ 国の支援は原則3分の1補助とされているが、予算が足りず補助額が低くなるケースがある
- ・ 国への支援拡充の働きかけも重要だが、鉄軌道への地方自治体の関わりを強めることが重要

今後、部会で示された交通事業者の現状や意見交換の内容を交通ワンチーム部会に共有。また、地域交通戦略会議へ部会の概要を報告し、引き続き議論を深める

第2回 交通ワンチーム部会の開催結果について

1. 日時 令和4年11月10日（木）10時00分～

2. 出席者（敬称略）

所属・役職	氏名	備考
西日本旅客鉄道株式会社金沢支社 地域共生室企画課 交通企画室長	鹿野 剛史	
あいの風とやま鉄道株式会社 常務取締役・運輸部長	高野 修	
富山地方鉄道株式会社 専務取締役	新庄 一洋	
万葉線株式会社 代表取締役専務	楠 達男	
加越能バス株式会社 自動車部長	清水 浩二	
富山県タクシー協会 専務理事	清澤 新一	
国土交通省北陸信越運輸局鉄道部 計画課長	菅原 幸三	
国土交通省北陸信越運輸局富山運輸支局 支局長	蝶名林 幸雄	
国土交通省北陸地方整備局富山河川国道事務所 調査第二課長	高田 英和	
富山県土木部道路課 副主幹	橋本 暁	
富山県警察本部交通部交通規制課 規制補佐	山田 康則	
県内15市町村 交通担当課	担当課長等	
富山県交通政策局 局長	田中 達也	部会長

3. 概要

(1) 地域交通とまちづくりについて国、富山市から説明

①ローカル鉄道の在り方に関する提言と立地適正化計画

- ・現状維持のための単純な欠損補助という思考ではなく、地域の特性に根差した利便性と持続可能性の高い輸送サービスの実現に向けた支援が適当
- ・居住機能や都市機能の誘導と連携して、持続可能な移動手段の確保・充実を推進

②富山市の目指すコンパクトシティ

- ・公共交通の沿線に居住、商業、行政、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、コンパクトなまちづくりを実現

(2) 富山県地域交通戦略の策定に向けた検討状況について事務局から説明

(3) 意見交換（主なもの）

- ・まちづくりと地域公共交通は密接に関係しており、市の基本構想に基づき、駐輪場や観光案内所の整備を進めている
- ・鉄道を基軸としたコンパクトなまちづくりを目指していく
- ・公共施設の再配置として、図書館と駅舎の合築整備を行った
- ・バス路線の再編やデマンド運行に取り組んでいるが、住民の移動をどのように確保していくか悩ましい
- ・鉄道がまちづくり等の地域の発展に向けた財産として必要とされるなら、これからも守っていく覚悟で議論を進めたい